

臨時市長記者会見資料

令和4年1月11日

新型コロナウイルス感染症に係る新たなレベル分類の判断指標の
設定と対応について

新型コロナウイルス感染症の感染状況に係る指標については、令和3年11月19日に国の基本的対処方針が改定され、医療のひっ迫度を重視する観点から、従来の4段階のステージ分類から、5段階のレベル分類に変更されたところです。

これを受け、感染状況に応じた明確な判断・迅速な対応を行うため、本市におけるレベル分類の考え方を整理し、別紙のとおり設定しましたので、お知らせします。

【事務担当】 いわき市新型コロナウイルス感染症対策本部事務局
(保健所総務課) 電話 27-8555

〈令和4年1月6日〉

新たなレベル分類の 判断指標の設定と対応について

(まとめ)

いわき市新型コロナウイルス 感染症対策本部事務局

1

旧ステージと新レベルの指標

これまでのステージ分類		新たなレベル分類	必要とされる対策
ステージⅠ	感染者の散発的発生	レベル0 【感染者ゼロレベル】 新規陽性者数ゼロを維持できている状況	○基本的感染症対策など一定の条件の下で、 教育や日常生活、社会経済活動も可能。
ステージⅡ	感染者の漸増	レベル1 【維持すべきレベル】 安定的に一般医療が確保され、新型コロナウイルス感染症に対し医療が対応できている状況	
ステージⅢ	感染者の急増	レベル2 【警戒を強化すべきレベル】 新規陽性者数の増加傾向、医療の負荷が生じはじめる状況	○地方部への感染拡大について警戒。 ○感染リスクの高い場所の回避の呼びかけ、 レベル3で行う対策の準備
ステージⅣ	爆発的な感染拡大	レベル3 【対策を強化すべきレベル】 一般医療を相当程度制限しなければ、感染症への医療の対応ができない状況(従来のステージ3の最終局面及びステージ4に相当)	○大都市圏では、広域的に「 強い対策 」 ○地方部では、 まん延防止等重点措置 も含め、効果的な対策。 ○「 ワクチン・検査パッケージ 」の 停止を検討
		レベル4 【避けたいレベル】 一般医療を大きく制限しても、感染症への医療に対応できない状況(各自治体の最大確保病床数を超えた数の入院が必要)	○都道府県及び医療の現場の判断により、 一般医療の制限やトリアージ などを含めた対応。 ○国は、 災害医療的な対応 として都道府県の支援、国民に医療の状況について周知

2

いわき市のレベル分類の目安と対策

レベル分類		市の判断指標		対策の概要	
		新規感染者数 (10万人当たり/1週間)	病床使用率	公共施設	庁内業務
レベル0 【感染者ゼロレベル】		0人			警戒態勢 63人
レベル1 【維持すべきレベル】		5人未満			
レベル2 【警戒を強化すべきレベル】	2-1	5人～15人未満	20%超	利用制限	第1配備 83人
	2-2	15人～25人未満	20%超		
レベル3 【対策を強化すべきレベル】		25人～50人未満	50%超	閉館	・非常時優先業務 第2配備 117人
レベル4 【避けたいレベル】		50人超	50%超		第3配備 142人

※レベルは、新規感染者数、病床使用率のいずれかに該当すれば適用。